

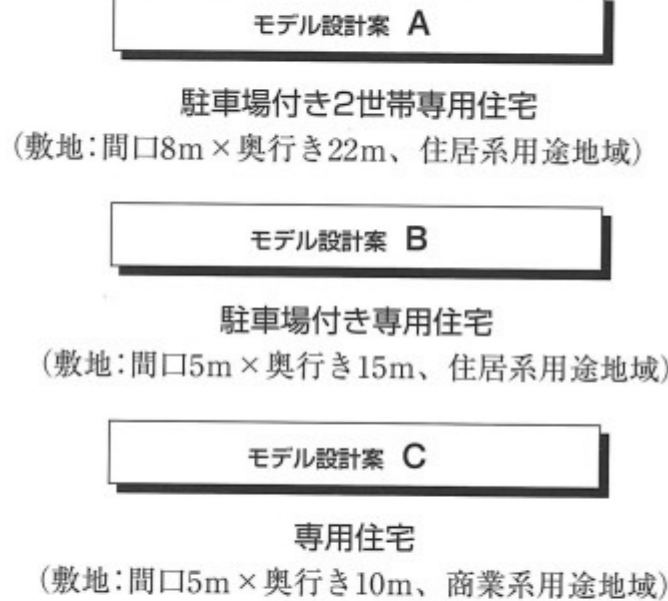
●新しい建物のモデル設計

実際の建物は、敷地や住まい手の条件などによって様々に考えられますが、このモデル設計は「新しい建物の修景基準」を理解していただくために、敷地など一定の条件を想定して設計したものです。

設計を進めるうえでの参考としてください。

■敷地条件等の設定

江戸時代の格子状の町割りを受けついで平野郷では、間口よりも奥行き長い敷地となっているものが見られます。このような敷地条件の中で、家族構成や車庫の有無などを想定し、次のように設定しています。



■設計の趣旨

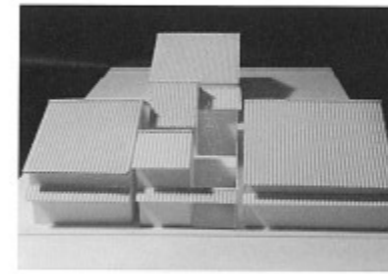
上記の案は、それぞれの条件にあわせて設計されていますが、共通する設計の趣旨は次の通りです。

・平野らしいまちなみに配慮する

「まちなみ・住まいづくりの作法」に沿ってまちなみの連続性を大切にするため、配置・高さ、町家の形に習った形態・意匠、周りになじむように工夫した素材・色彩などに配慮しています。

・周辺的环境にも配慮する

道路から見える部分だけではなく、中庭や奥庭を設け、3階部分の配置など、周辺環境にも配慮しています。

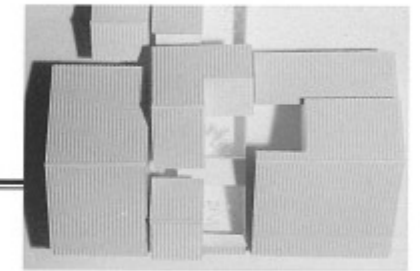


モデル設計案

A

駐車場付き2世帯専用住宅

■間口8m×奥行き22m	■敷地面積 176.00m ²
■住居系用途地域	■建築面積 98.46m ²
	■延床面積 156.91m ²



軒下空間をゆったりとる

軒庇をとることでゆったりとした軒下空間が生まれ、住宅内部と道路を柔らかくつなぎます。さらに土間仕上げの材料を慎重に選択することによって、まちに対して柔らかな表情を醸し出すように配慮しています。祭りの日にはちょうちんを掛けることができ、ハレの日のしつらいに対応することができます。

町家の通気・採光手法に学ぶ

中庭をとることで通風や採光、緑といった自然を取り入れます。また、庭の位置を隣家と揃えると、お互いの採光・通風条件がいっそうよくなります。また、建具を開け放つことで、内外一体の広い空間を作り出すことができます。

材料は自然素材を優先する

年月を経るごとに柔らかな魅力を増す自然素材をできるだけ多く用いるようにします。

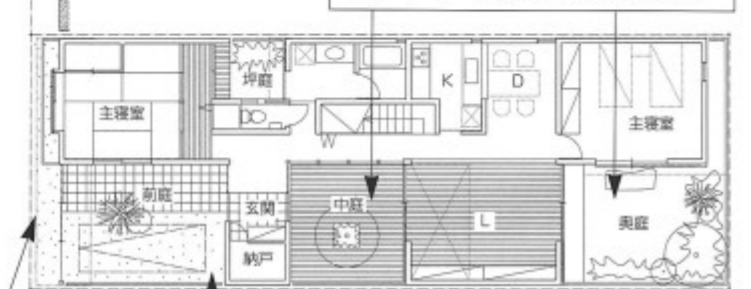
色彩はまちなみに調和したものを基調とする

素材そのものが持つ色を大切に扱い、落ち着いた色を基調とした色彩計画をおこなうようにします。



2階平面図

中庭は居間の延長となり、奥庭はプライベート要素の高い庭です。



1階平面図

建物をつなげる

壁面の位置、塀や門の位置を両隣の建物と揃え、連続感を出しています。

玄関へのアプローチとガレージを兼ねており、お祭りの時のオープンスペースにもなります。

伝統的建物に見られる形態・意匠を活用する

建具や格子のデザインを慎重に扱うことによって繊細な面を構成しています。

高さは周囲を見て決める

道路に面する部分の高さを2階にすることで、まちなみの連続感を保つことができます。

軒庇と建物をつなげる

軒庇をまっすぐ通し、両隣との連続感が途切れないようにします。



断面図

道路側立面図